

(案)

第4次

津山市子ども読書活動推進計画

～心はぐくむ つやまっ子読書プラン～



平成 31 年 3 月

津山市・津山市教育委員会

第1章 計画策定の基本的な考え方

1 計画策定の目的と背景

読書は、乳幼児期の絵本の読み聞かせなどから始まり、単に言葉や知識を身に付けるだけでなく、少しずつ感性や創造力を豊かなものにしながら、人生をより豊かに、より深く生きていくために欠くことのできないものです。

しかし、ゲームやインターネット、スマートフォンなどの電子メディアが急速に普及した現代では、子どもたちの生活習慣などに大きな変化をもたらしています。このたび実施した読書アンケート結果では、乳幼児期からの読み聞かせへの理解が広がった一方で、電子メディアの広がりとともに、小学5年生では読書離れや活字離れなどが少しずつ進んでいることもわかってきました。

子どもは、乳幼児期からの親とのふれあいや読み聞かせなどにより本に興味や関心を持ち始めると、自ら本にふれようとします。未来を担う子どもたちが豊かな読書活動を通して健やかに育つためには、あらゆる場面において本にふれる環境を整備し、読書習慣の形成を支援していくことが大切です。

平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行されたことを契機に、津山市でも平成16年度に「津山市子ども読書活動推進計画～心はぐくむ つやまっ子読書プラン～」を策定し、その後、平成21年度に第2次計画を、さらに平成26年度に第3次計画を策定し、読書活動を推進してきました。

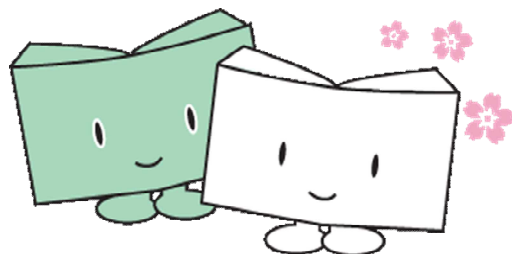
そして、このたび、乳幼児や小中学生、さらにその保護者や子どもの読書活動推進に係る市民ボランティアなどを対象に、家庭教育の支援にもつながる子どもの読書活動推進をめざし、第4次計画を策定しました。

2 計画の基本理念

この計画を通じて、子どもの「生きる力」や「考える力」を育むことをめざし、「本を読もう、読み聞かそう」を合言葉に子どもと保護者、そして地域の読書ボランティアなどで協働し、社会全体で子どもの読書活動を推進します。

3 計画の期間

本計画は、2019年度（平成31年度）から2023年度までの5年間とします。



第2章 第3次計画の成果と課題

第3次計画では、家庭教育の支援につながる子どもの読書活動の推進をはじめとした基本方針や重点プロジェクトを定め、図書館や学校等において取組を進めてきました。ここでは第3次計画に基づいた取組を振り返り、アンケート結果なども参考に主な成果と課題を整理します。

1 家庭教育への支援及び地域との協働による読書活動の推進

【成果】

- ・平成29年度からボランティア団体や保健師などと一緒に「読み聞かせキャラバン」を新たに始め、保護者の子育て意識の高揚や人間関係づくりなどを進めるなかで、読書の重要性を認識してもらう取組を進めた。
- ・本を通じて親子が語り合い、子どもの心を育むことを目的として、乳児健診時に乳幼児とその保護者を対象に「ブックスタート事業（※1）」（平成13年～）を行い、読み聞かせや絵本にふれる機会づくりを関係機関と連携して進めた。
- ・親子音読大会、教科書音読発表会、子育てワークショップ研修などを行うことにより、読書を通じた家庭教育の取組を進めた。
- ・絵本リストを作成し、読み聞かせに適した絵本の情報を提供することで、家庭での読み聞かせを推進した。
- ・読書ボランティア交流会を毎年開催し、地域の関係づくりなどの意見交換を行うとともに、読み聞かせのスキルアップを図った。

※1 本に親しみ、読み聞かせの大切さ、親子のふれあいの大切さを啓発するため、乳児健診において絵本を贈る事業。

【課題】

- ・小学5年生を対象にした読書アンケートで、読書が「あまり好きでない」「きらい」と答えた児童が増加している。その理由として、「文字（本）を読むのが嫌い」「他にしたいことがある」と答えた児童が多く、また、児童が好きな活動の調査からは、ゲームやインターネット、スマートフォンなどの電子メディアを好む傾向が強まっている。（小5対象アンケート問2、問5、問12より）
- ・子どもが「読書がおもしろい」と感じる基礎は、乳幼児期に培われるため、家庭や保育園（所）・認定こども園・幼稚園、地域において、子どもと保護者が一緒に本に親しめる環境づくりを進め、読み聞かせの大切さやメディアとのつきあい方について、早い段階から学ぶ機会を提供する必要がある。

2 市立図書館の機能を活かした子どもの読書活動の推進

【成 果】

- ・子どもが読書の喜びや魅力を発見できるよう、ボランティアと協働して読書環境の整備や読み聞かせなどを進めた。
- ・保育園（所）・認定こども園・幼稚園、児童館、学校などに出向いて、読み聞かせや図書の貸出を進めた。
- ・自動車文庫ぶっくまるの巡回箇所を増やし、本との出会いを進める取組を行った。
- ・小中学生が図書館の図書等を活用して調べる学習を行う「調べる学習コンクール」を教育委員会の各部署と連携して開催した。

【課 題】

- ・児童図書の充実についての要望は多く、計画的な整備が必要である。
- ・図書館利用を増やすため、ボランティアと協働して「読み聞かせ」や「おはなし会」などの子ども向け行事を継続して実施するとともに、読書の楽しさをアピールするイベントを企画するなど、内容の充実が必要である。（小5対象アンケート問19、問20、年長児保護者対象アンケート問17より）

3 学校等における子どもの読書活動の推進

【成 果】

- ・各学校が独自で読書週間を設定するなど、「チャレンジ・ハッピーデー（※2）」に取り組み、子どもの生活リズム向上につながる読書活動を推進した。
- ・朝読書や読み聞かせなど読書習慣の定着を進めた。
- ・学校司書や司書教諭、図書整理員の配置により、子どもに読書の楽しさを知らせ、読書に親しむ環境を整えることができている、子どもたちが本にふれる場所として学校の図書室がもっとも身近な場所となっている。（小5対象アンケート問21、問22より）

※2 家族のふれあいなどを通じて絆を強めるとともに、規則正しい生活習慣を身につけることで学力向上などにもつなげる取組で、その中で読書活動も推進している。

【課 題】

- ・平成29年度全国学力・学習状況調査〔小学校〕において、読書時間が「10分より少ない」「まったくしない」と回答した児童は約35%であった。県や全国との差は見られなかったものの、本にふれる時間を増やす取組が必要である。
- ・小学5年生を対象にした読書アンケートで、読書が「あまり好きでない」「きらい」と答えた児童が増加しており、学校内での読書活動においても、児童の読書離れを克服する対策が必要となっている。（小5対象アンケート問2、問5より）

4 子どもの読書活動の推進に関する啓発推進

【成 果】

- ・絵本リストを作成し、保育園（所）・認定こども園・幼稚園、学校、図書館、児童館などへ配布し読み聞かせに使用する絵本を紹介した。
- ・「子ども読書の日（4月23日）」や「こどもの読書週間（4月23日～5月12日）」に関連して、音読発表会や絵本を題材とした料理教室などを開催し、本に親しむ機会を提供した。
- ・読み聞かせの大切さについて啓発したことで、年長児保護者への読書アンケートでは、家庭や園などでの読み聞かせの経験から、子どもが本や絵本に「興味がある」と回答した人が前回調査より増加した。（年長児保護者対象アンケート問1、問2、問4より）

【課 題】

- ・ゲームやインターネット、スマートフォンなどの電子メディアが普及してきたことで、子どもの生活習慣なども変化している。読書のよさや大切さを啓発する取組の重要性が増している。
- ・読み聞かせボランティア等と連携・協働し、広く啓発を進めるとともに、子どもの読書活動を推進する人材を育成し、活躍できる場を提供するなど、取組の一層の充実が求められる。

5 第3次津山市子ども読書活動推進計画で実行した3つの取組（実績）

「1日15分間読書」

家庭・学校等で読書習慣が身に付くように取り組む。

【数値目標①】

1週間の読書時間(小5)

1時間未満 35.8%(H25年度)→ 10%未満(H30年度)

(実績)

「1日15分間読書」の取組結果をわかりやすく把握するため、1日の読書時間を問う全国学力・学習状況調査を参考とした。その結果、読書時間30分以上は36.2%と増えておらず、目標達成には至らなかった。さらに、全く本を読まない子どもも18.6%あったことから、家庭・地域・学校等が連携し、地域をあげて読書活動を推進する必要がある。

1日(平日)の読書時間(小6)

30分以上 37.9%(H25年度)→ 36.2%(H29年度)

【参考】全国学力・学習状況調査結果

質問:「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」

H25 年度:2 時間以上(6.9%)、1 時間以上 2 時間より少ない(10.1%)、30 分以上 1 時間より少ない(20.9%)、10 分以上 30 分より少ない(23.6%)、10 分より少ない(18.6%)、全くしない(19.5%)、その他(0.2%)、無回答(0%)

H29 年度:2 時間以上(6.3%)1 時間以上 2 時間より少ない(11.1%)、30 分以上 1 時間より少ない(18.8%)、10 分以上 30 分より少ない(28.4%)、10 分より少ない(16.7%)、全くしない(18.6%)、無回答(0.1%)

「つやまっ子に贈る絵本リスト」の作成

乳幼児の読み聞かせ活動を支援するため、市民に広く呼びかけて、自分が子どもの頃に大好きだった本や、子どもたちにぜひ読んであげたい本を紹介してもらい、読み聞かせのアドバイスとともにリストにする。今の子どもたちが良書と出会い、読書を通じたコミュニケーションのきっかけに活用する。

(実績)

印刷部数 31,000部

絵本リストを作成し、保育園(所)・認定こども園・幼稚園、小学校、図書館、児童館など、親子が集まる場所や子育てワークショップ研修などで配布し、読み聞かせの支援に活用した。

「読書推進につながる家庭教育支援」

ゲームや携帯電話等各種メディアとのつきあい方を見直し、家庭での読書時間を確保するよう啓発を行う。また、地域や学校で音読大会を開催したり、親子で参加できる読書イベントの開催を通じて、家族のふれあいや絆を深めながら楽しく読書に親しむ機会とする。

【数値目標②】

読み聞かせを「よくしている」保護者(年長)

24.8%(H25 年度) → 30.0%(H30 年度)

(実績)

客観的に読み聞かせの状況を把握するため、アンケート項目を変更。

読み聞かせをしたことがあると回答した人に、「どのくらいの頻度でしていますか」について調べた。その結果、週 3 日以上読み聞かせをする人が 34.1%あり、目標を達成できたと考えている。

【H30 年度アンケート結果(年長児保護者)】

ほぼ毎日(14.3%) 週 3～5 日(19.8%) 週 1～2 日(44.7%)

その他(16.6%) 無回答(4.6%)

第3章 第4次計画推進のための施策

子どもの読書活動を推進するため、第4次計画では以下のビジョンを掲げ、その実現のための基本方針と、家庭と地域、保育園（所）・認定こども園・幼稚園、市立図書館、学校等のそれぞれが行うべき具体的な取組を示します。

【第4次計画に掲げるビジョン】

- ボランティアなどとの協働を進め、家庭教育力の向上につながる読書活動の推進に取り組みます。
- 一人でも多くのつやまっ子が本と仲良しになるよう、出会いやきっかけづくりを進めます。
- 家庭、地域、学校等の連携を通じて子どものよりよい読書環境づくりを進めます。

1 基本方針 I

家庭教育への支援及び地域との協働による子どもの読書活動の推進

子どもの読書習慣は、乳幼児期からのやさしい言葉かけやふれあい、絵本の読み聞かせなどから始まります。それは、読んでくれる人の温もりやにおい、鼓動などを感じながら、物語の世界に入り込んでいく体験をすることにもつながります。幼い時からの読み聞かせは、保護者と子どもが本を通して互いに心を通わせ、愛情を深める大切な時間となるほか、子どもが成長し自立していくために必要な思考力や判断力、コミュニケーション力などを身に付けるきっかけになります。

さらに、保護者が親としての自覚を高めながら、子どもを愛し、慈しむことへもつながります。

現在、ゲームやインターネット、スマートフォンなどの電子メディアが急速に普及したことで、子どもたちがそれぞれのメディアの特性を理解して、上手なつきあい方を身に付けることが大切になってきています。そうした中で、物事を深く、順序よくとらえ、幅広く認識する力を培う読書は、ますます重要になってきます。

読書を通じた子どもの健全育成を進めていくためにも、地域のさまざまな団体との連携・協働を進め、子どもの読書活動を推進します。

【推進のための取組】

(1) 家庭教育への支援を進める読書活動

- ・読み聞かせボランティアや保健師などと連携して「読み聞かせキャラバン」を開催し、乳幼児の保護者に絵本の読み聞かせや親子のふれあいの大切さを伝え、また、子育ての悩みや不安を解消するための育児相談などを行います。
- ・乳幼児とその保護者に対してブックスタート事業を行い、読み聞かせや絵本にふれる機会づくりなど読書の大切さを啓発します。
- ・保護者や児童生徒を対象に読書の重要性に加え、ゲームやインターネット、スマートフォンなどの電子メディアとのつきあい方をテーマに講座やワークショップ研修等を開催し、家庭教育の役割について理解を進めます。

(2) 地域との協働による読書活動

- ・ボランティアや地域の協力者などと積極的に協働し、地域をあげて子どもが本とふれあうことのできる体制づくりと読書活動を進めます。
- ・学校や図書館、児童館、公民館、放課後児童クラブなどで、読書ボランティアなどによる読み聞かせやストーリーテリング（※3）等の読書を通じた地域のふれあいを進めます。
 - ※3 ストーリーテリングとは、語り手が昔話などの物語を覚えて自分のものとし、本を見ないで語るもので、「語り」とも呼ばれている。
- ・子どもが本に親しみを持ち、読書習慣などが身に付くように、学校や地域で行われる音読大会などを支援します。
- ・児童館や公民館などでも読書活動が進むよう、配本などによる図書資料の充実と利用を進めます。

(3) 団体等に対する支援の取組

- ・子どもの読書活動を推進するボランティア団体等に対し、交流会や研修会を開催します。また、生涯学習人材バンクに登録し、広く情報提供を進めながら、活躍の場をつくれます。



▲読書ボランティアによるおはなし会の様子

2 基本方針Ⅱ

市立図書館の機能を活かした子どもの読書活動の推進

市立図書館は、子どもたちが本との出会いを通じて読書の喜びや魅力などを発見できるよう絵本や児童図書などの整備を進めています。また、読書ボランティアなどの協力を得て本の紹介や読み聞かせなど、子どもの読書活動を推進しています。

現在、本館、加茂、勝北、久米の4図書館のほか、自動車文庫ぶつくまるを巡回し、本を貸出しています。

また、保育園（所）・認定こども園・幼稚園、学校、児童館、公民館、放課後児童クラブなどの子どもたちが集まるところへ直接出向き、本の貸出や読み聞かせを行い、読書活動の推進に取り組めます。

さらに、高等学校や高等専門学校、大学、病院などの地域の関係機関とも連携し、講演会や研修会など図書館機能を活かした専門的な活動を展開します。

今後も、図書資料の充実や本との出会いづくりなどを工夫して進めながら、子どもの読書活動推進に係る拠点施設として、魅力ある図書館づくりを進めていきます。

【推進のための取組】

(1) 市立図書館における子どもの読書活動

- ・子どもや親子が安心して過ごせるよう環境整備を進めながら、本との出会いなどを通じて子どもの読書活動や学習活動を支援します。
- ・おはなし会や読み聞かせ会、図書館まつりなどの魅力的な子ども向け行事を開催し、本との出会いやきっかけづくりなどを通じて子どもの居場所づくりを進めます。
- ・保育園（所）・認定こども園・幼稚園、学校、公民館、放課後児童クラブなどでも子どもの読書活動が充実するよう、本の配送やクラス貸出などを進めます。
- ・郷土にちなんだ図書や資料を収集し、さまざまな形で子ども向けに展示などを行い、郷土への理解を深めます。
- ・一日図書館員や中学生の職場体験学習などを通じて図書館に対する興味と関心を喚起し、子どもの読書活動推進につなげます。
- ・子どもの読書活動を支援する大人や読書ボランティア向けに、選書や読み聞かせ、ストーリーテリングなどのスキルアップを図る講座を開催します。
- ・図書館の役割と読書の楽しさを啓発するための講演会や講座などを開催し、子どもの自主的な読書習慣につなげます。
- ・子どもたちの興味や関心を読書活動に結び付けるため、小中学生を対象とした「調べる学習コンクール」を関係部署と連携し開催します。

(2) 施設環境の整備と関係機関との連携

- ・インターネットを通じて資料検索や予約等のサービスを向上させるほか、図書や学習情報などの情報発信を積極的に進めます。
- ・保育園（所）・認定こども園・幼稚園、学校などでの保育や授業、行事などが充実するよう、図書の団体貸出など、市立図書館の機能を活かした支援に努めます。
- ・地域での読書活動を推進するため、保育園（所）・認定こども園・幼稚園、学校、児童館、公民館、放課後児童クラブ等との連携を進め、読書に関する行事などの開催を支援します。
- ・児童図書の整備を計画的に進めます。
- ・津山工業高等専門学校図書館、美作大学図書館及び市内6高等学校図書館と締結している相互協力協定に基づき、連携して生徒及び学生の読書活動推進につなげます。

3 基本方針Ⅲ

保育園（所）・認定こども園・幼稚園、学校等における読書活動の推進

保育園（所）・認定こども園・幼稚園などでの読み聞かせや絵本の貸出等は、子どもが本にふれるきっかけや保護者が家庭で読み聞かせを進めるきっかけになっていることがアンケート調査で分かりました。このことから保育園（所）・認定こども園・幼稚園、そして学校などの取組は、子どもの読書習慣の定着にとって非常に大きな役割を果たしています。

しかし、ゲームやインターネット、スマートフォンなどの普及が急速に進み、低年齢から電子メディアに接する機会が増えると同時に、本にふれる機会が減り、家庭において読書をしない子どもが増加する傾向にあります。

学校の学習において、読書は国語科で育成を目指す資質・能力を高める重要な活動の一つであると示され、自ら進んで読書をし、読書を通じて人生を豊かにしようとする態度を養うために、国語科の学習が読書活動に結びつくよう、発達に応じて系統的に指導することが求められています。

子どもの読書習慣を確立するためには、読み聞かせなどからの受動的な読書から能動的・自発的な読書へと変わる小学校中学年から高学年における読書指導が大切です。学校司書（図書整理員）や司書教諭、担当教師、ボランティア等が協力し、市立図書館とも連携することで、学校における読書活動の推進を図ります。

【推進のための取組】

(1) 保育園（所）・認定こども園・幼稚園等における読書活動

- ・乳幼児期から本の楽しさに出会えるよう、職員やボランティアなどによる絵本の読み聞かせなどを積極的に進めます。また、読み聞かせの方法や選書など職員の資質向上につながる研修会や交流会を開催します。
- ・園などからの絵本貸出などを積極的に進め、家庭での読み聞かせの支援を通じて子どもの身近に本がある環境づくりを進めます。
- ・子どもの発達段階に応じた図書を選定し、ボランティアや市立図書館等との連携を進めながら絵本等に親しむ機会を充実します。

(2) 小中学校における読書活動

- ・図書館だよりでの推薦本や特集本の紹介などをはじめ、読書活動の質を向上させるためのさまざまな工夫を通じて児童生徒の興味や関心を喚起し、読書習慣の確立につなげます。
- ・ボランティアなどと連携し、朝読書や読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク（※4）等を通じて子どもの読書活動に関する意識の高揚を図り、生涯にわたる読書習慣を身に付けるよう取組を進めます。
- ・子どもが本を活用して調べる学習などを展開しやすいよう、学校図書館と市立図書館とで連携します。
- ・「チャレンジ・ハッピーデー」や「ノーメディアウィーク（※5）」など生活リズム向上の取組と読書活動とを組み合わせる推進します。
- ・市立図書館と学校司書(図書整理員)、司書教諭等の連携をさらに進め、読書活動や学習活動がさらに充実するよう幅広い分野の図書や資料を計画的に整備します。

※4 一定のテーマを立て、何冊かの本の魅力やおもしろさを聞き手に紹介すること。

※5 中学校のテスト週間などにテレビやゲーム、スマートフォン、SNS等のメディアに潜む問題を意識させ、自らの生活習慣を見つめ直す取組。



▲図書館司書による読み聞かせの様子

4 基本方針Ⅳ

読書活動推進体制の充実

子どもが本にふれるきっかけや日々の読書習慣の定着は、家庭での読み聞かせや身近に本がある環境から始まります。ゲームやインターネット、スマートフォンなどの電子メディアが広く普及している現在、子どもの読書活動を広く推進していくためには、保育園（所）・認定こども園・幼稚園、児童館、図書館などで読み聞かせなどをしてくれる大人の存在に加え、図書館などと連携した身近に本のある環境づくりが大切です。

今回実施した読書アンケート結果では、乳幼児期からの読み聞かせへの理解が広がった一方で、電子メディアの広がりとともに、小学5年生アンケートでは、読書離れや活字離れなどが少しずつ進んでいることもわかってきました。

これらの結果を踏まえ、子どもの読書活動の推進に携わる市民ボランティアなどと協働し、地域をあげた子どもの読書活動の推進体制を充実します。

【推進のための取組】

(1) 協働による子どもの読書活動

- ・「子ども読書の日」や「こどもの読書週間」等の趣旨を活かし、市民ボランティアなどとの協働を進めながら、パネル展や音読大会、啓発イベントなど、子どもの読書活動の充実を図ります。
- ・市立図書館や保育園（所）・認定こども園・幼稚園、学校、児童館、公民館、放課後児童クラブ等と読書ボランティアなどの市民グループとの連携を進め、読書活動の推進体制を充実します。
- ・読み聞かせや育児相談に加え、親子のふれあいを進めるベビーマッサージなどを行うことで乳幼児の保護者が子育ての悩みや不安を解消し、家庭教育の支援にもつながる「読み聞かせキャラバン」を保健師や読書ボランティア等と協働して開催します。
- ・市立図書館が子どもの読書活動の推進拠点となるよう、魅力ある図書館行事をボランティアなどと協働して進めます。

(2) 各種情報の収集・提供及び人材育成

- ・子どもへの読み聞かせがさらに進むよう絵本リストを刷新し配布します。
- ・広報津山や市ホームページ、ソーシャルメディア等を通じて子どもの読書活動に関する事業を随時広報します。
- ・スマートフォンなどの利用のへい害などを周知し、使用方法を親子などで話し合うこ

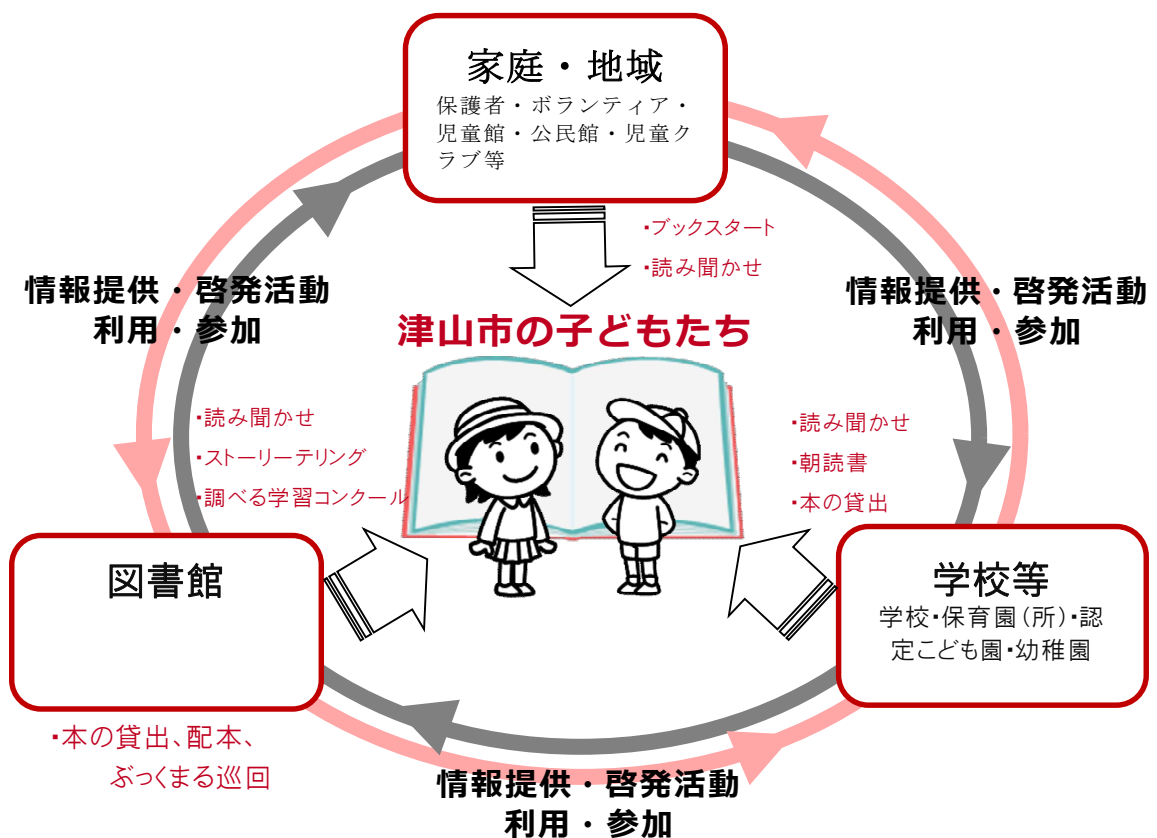
とで生活習慣の見直しを進めます。

- ・読書ボランティア交流会や研修会などを通じて、保育園（所）・認定こども園・幼稚園、学校、市立図書館、公民館等で読書活動を推進・支援するボランティアの育成を進め、地域での活躍の場を広げるように努めます。さらに、その情報を生涯学習人材バンクへ登録し広く情報提供します。

社会全体で子どもの読書活動を推進する取組体制

協働による子どもの読書活動の推進

合言葉「本を読もう、読み聞かせそう」



子どもたちの
「生きる力」や「考える力」を育むために

5 第4次津山市子ども読書活動推進計画で実行する3つの取組

第4次計画で取り組む施策の実施状況と効果を検証するため、数値目標を設定し、毎年進捗状況を把握・検証しながら計画を実行します。

1 家庭・地域・学校等が連携した「1日15分間読書」の推進

家庭や地域、保育園(所)・認定こども園・幼稚園、学校、市立図書館、放課後児童クラブ等で連携し、絵本や本、教科書などにふれながら、地域をあげて子どもの読書習慣の定着に努める

【数値目標①】

不読率の半減に取り組む

18.6%[2017年度(H29年度)] → 10.0%未満[2023年度]

H29年度は全国学力・学習状況調査(小6)の結果
読書を全くしない(18.6%)
以後は小学5年生対象アンケート結果により検証

2 ボランティアなどと協働した読み聞かせの推進

地域のボランティアや図書館司書、保健師などと協働し、市立図書館や児童館、公民館、放課後児童クラブなどで読み聞かせや育児相談などを行い、本との出会いや読書のきっかけづくりを進める。

【数値目標②】

ボランティアなどと協働した読み聞かせキャラバンの実施

年間5回[2018年度(H30年度)] → 年間8回以上[2023年度]

3 読書推進につながる家庭教育の支援

親子のつながりを深めるためにも乳幼児期からの読書習慣の定着を進め、家庭での読み聞かせを行う回数を増加させる。

【数値目標③】

保育園(所)・認定こども園・幼稚園などの年長児保護者が「家で読み聞かせをしたことがある」と回答した人のうち、「週3日以上」と回答する人の割合

34.1%[2018年度(H30年度)] → 40.0%[2023年度]

年長児保護者対象アンケート結果により検証